

2021年3月期
第2四半期
決算説明会資料

2020年11月27日
中央化学株式会社

目次

1. 2021年3月期第2四半期 実績

2. 2021年3月期第2四半期 振り返り

3. 2021年3月期 取り組み方針

4. 中国事業 取り組み



1. 2021年3月期第2四半期 実績



2021年3月期 第2四半期連結実績

1. 2021年3月期第2四半期 実績

売上高

238億円

営業利益

11.5億円

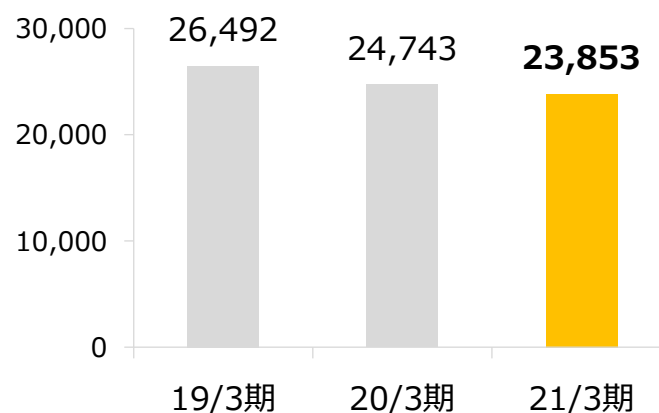
経常利益

11.0億円

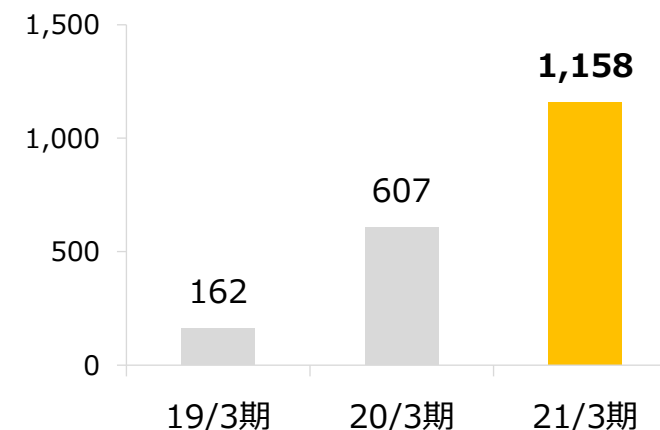
親会社株主に帰属する
四半期純利益

9.6億円

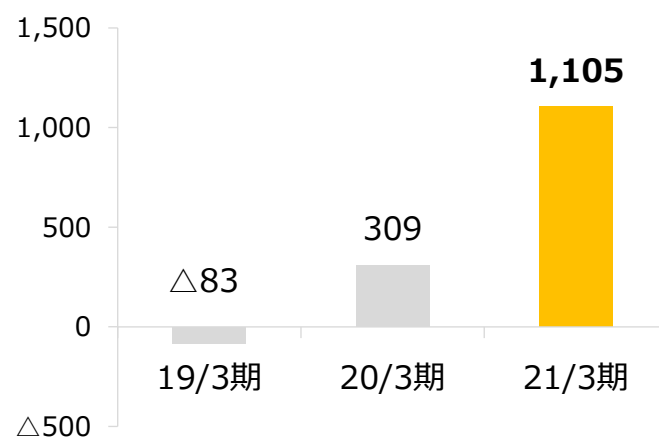
売上高



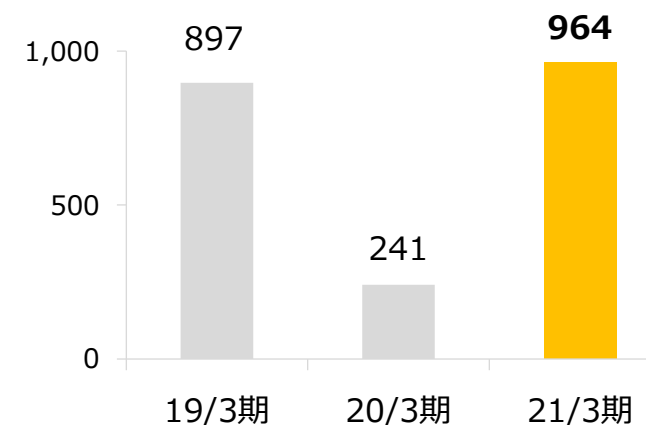
営業利益



経常損益



親会社株主に帰属する四半期純利益

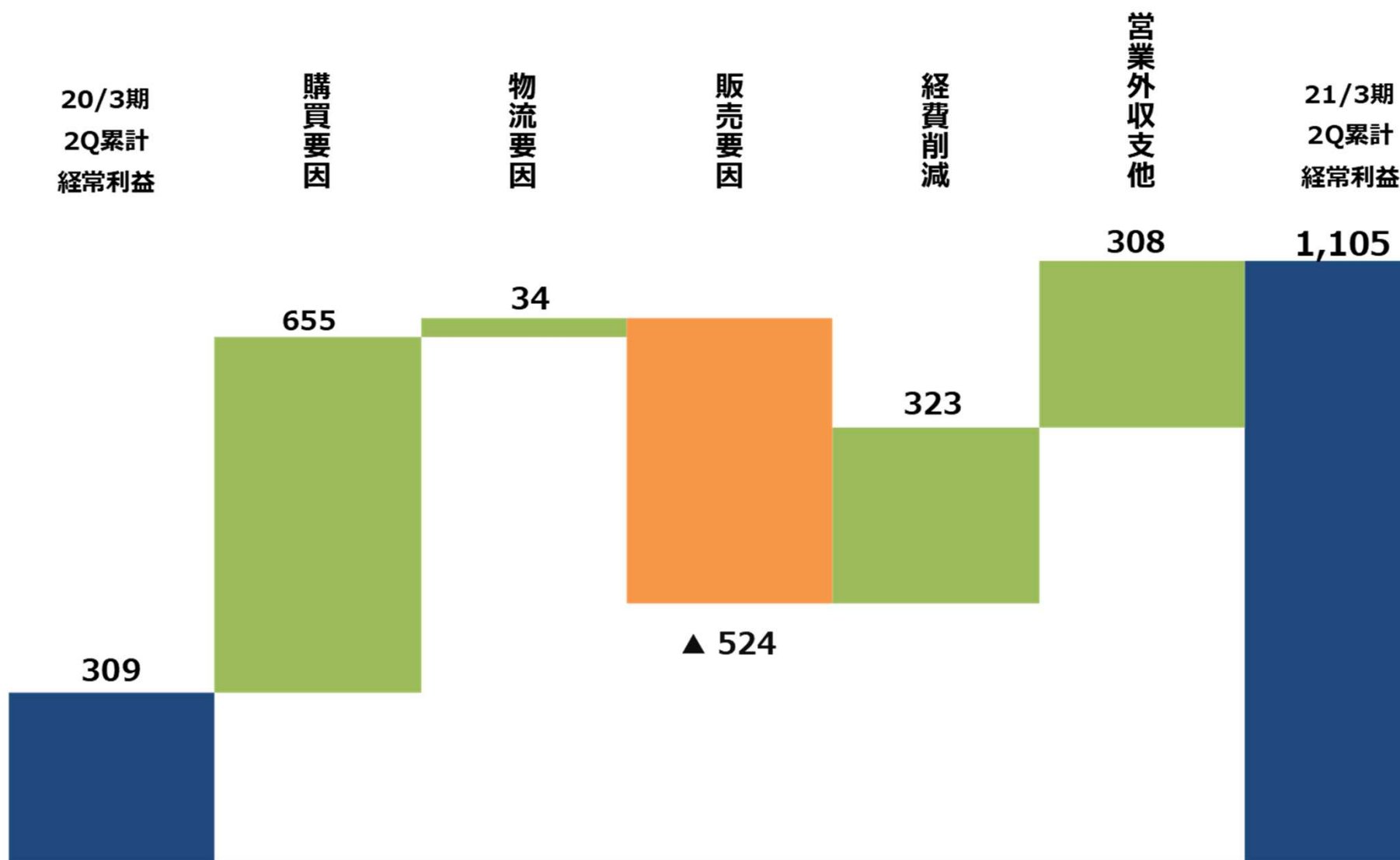


※第2四半期累計となります

連結経常利益の増減（前年同期対比）

1.2021年3月期第2四半期 実績

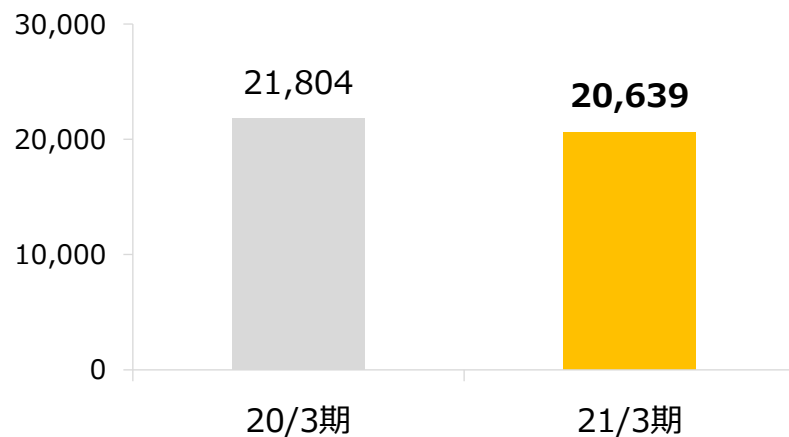
(百万円)



報告セグメントの売上高・利益

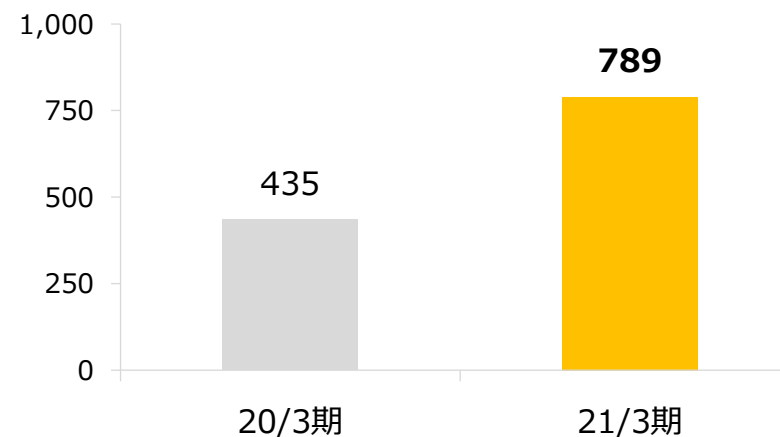
1.2021年3月期第2四半期 実績

日本 売上高

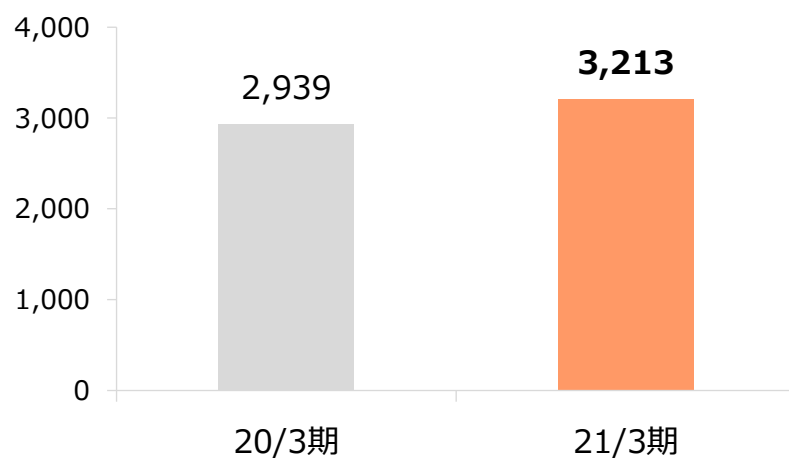


日本 セグメント利益

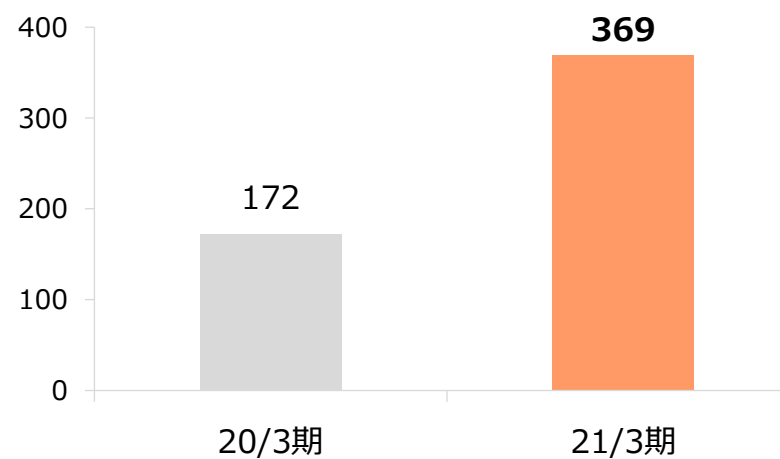
(百万円)



中国 売上高



中国 セグメント利益



※第2四半期累計となります

連結貸借対照表実績

1.2021年3月期第2四半期 実績

	20/3期期末	21/3期2Q末	増減	(百万円)
流動資産	18,468	20,431	1,963	
現金及び預金	2,845	4,954	2,109	
受取手形及び売掛金	7,360	7,411	51	
棚卸資産	6,778	6,666	▲112	
その他	1,485	1,400	▲85	
固定資産	16,140	15,750	▲390	
有形固定資産	15,127	14,700	▲427	
無形固定資産	385	363	▲22	
投資その他の資産	626	687	61	
資産合計	34,608	36,182	1,574	
負債合計	27,943	28,450	507	
借入金残高	12,345	13,207	862	
その他	15,598	15,243	▲355	
純資産合計	6,665	7,732	1,067	
自己資本比率	19.3%	21.4%	2.1%	
負債純資産合計	34,608	36,182	1,574	

連結キャッシュ・フローの実績

1.2021年3月期第2四半期 実績

(百万円)

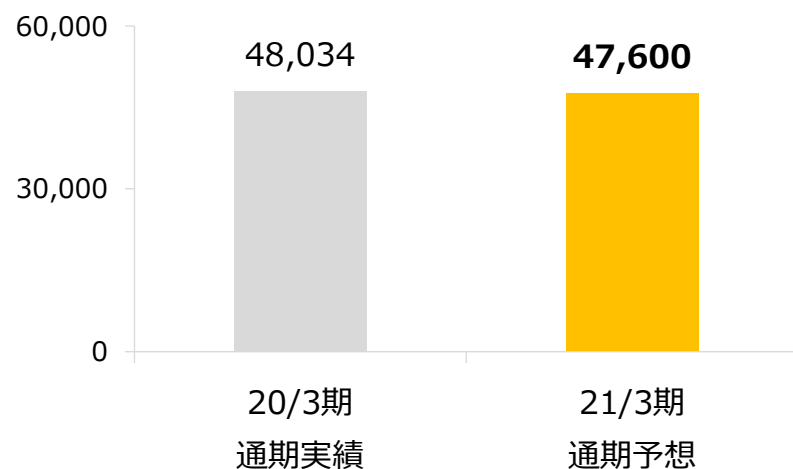
	20/3期2Q累計	21/3期2Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	746	2,089
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲663	▲361
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲955	365
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲124	14
現金及び現金同等物の増減額	▲996	2,108
現金及び現金同等物の期首残高	3,661	2,839
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,665	4,948

※△は減少

2021年3月期 連結通期業績予想

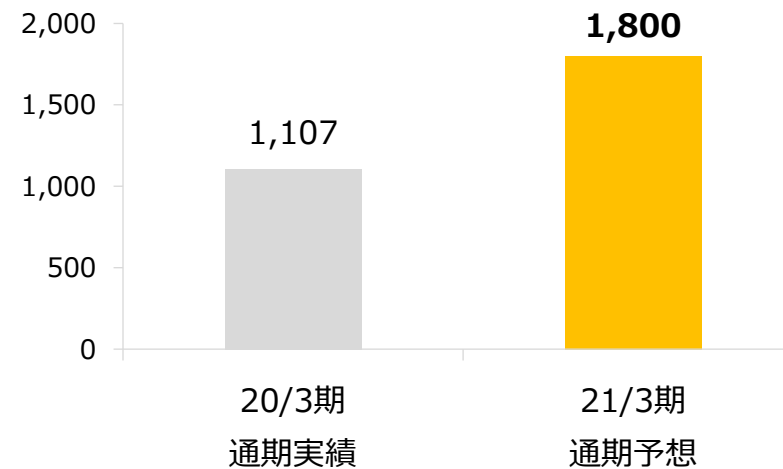
1. 2021年3月期第2四半期 実績

売上高

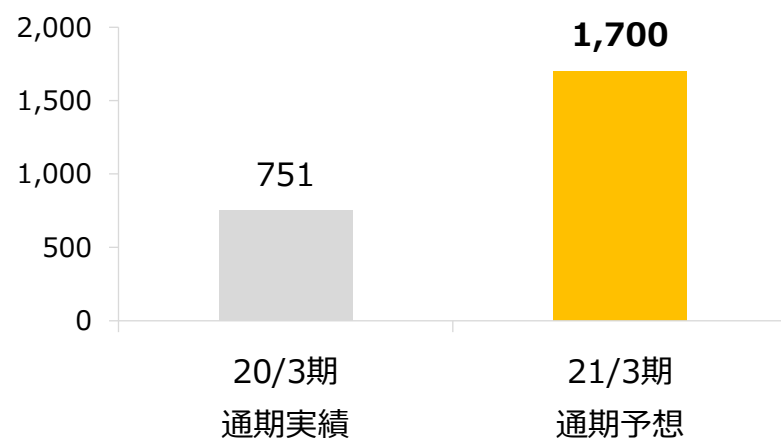


営業利益

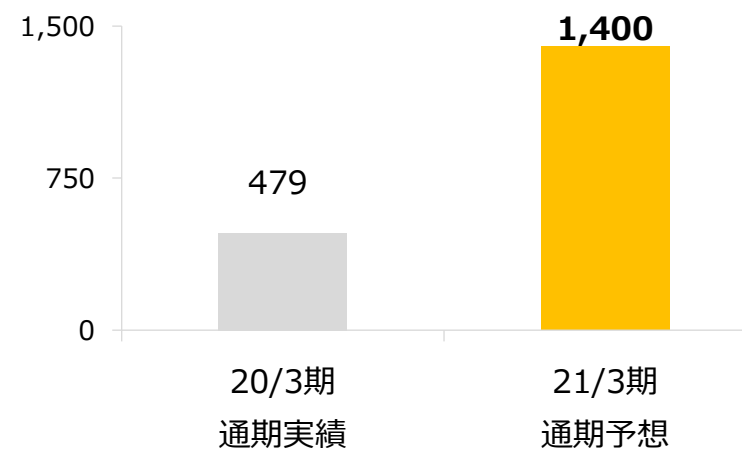
(百万円)




経常利益




親会社株主に帰属する当期純利益





2. 2021年3月期第2四半期 振り返り



✓ コロナ感染防止に万全の対策をとり、事業活動を推進

- ▶ 日本、中国ともに安定操業を継続
- ▶ ライフスタイルの変化に対応し、製品の安定供給

✓ 事業戦略の着実な遂行

- ▶ 汎用容器事業の基盤強化
- ▶ 成長市場へのアプローチ

✓ 環境対応の強化

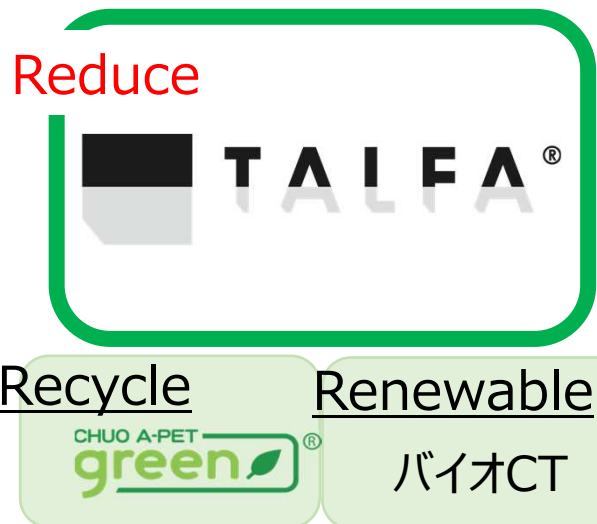
- ▶ 環境配慮型素材・製品の開発・上市
- ▶ 環境・リサイクル室を社長直轄組織とし、環境・リサイクル案件への戦略的対応

✓ 中国事業の基盤強化

- ▶ 3工場最適生産体制の推進
- ▶ 木製カトラー等新規事業進出

トピックス(1) 環境配慮型素材「TALFA」上市

2. 2021年3月期第2四半期 振り返り



● TALFAで実現する中央化学の「Reduce」

POINT 1

天然資源素材タルク使用で、プラスチック使用を50%未満に抑制。

POINT 2

プラスチック素材のCO₂排出量をPP比▲46%、CT(PPフィルター)比▲26%を実現

👉 **環境負荷低減を通じて持続可能な社会の実現に貢献**

● TALFA「R-DON」 & 「DINER」 5月上市

【シリーズラインナップ】

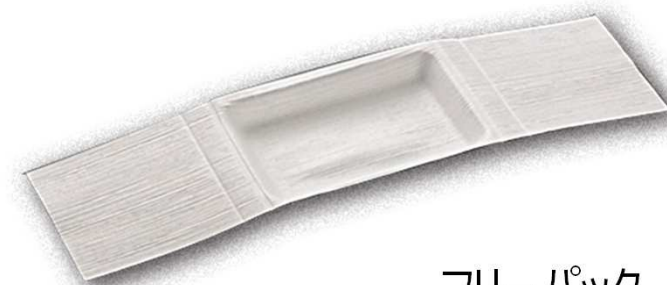
量産・新製品開発を図る



R-DON



DINER



フリーパック

大手スーパー様にて**採用中**

◆ 中央化学は豊かな食生活の実現と環境課題に貢献する“器”を提供し続けていきます。

トピックス(2) 外食ビジネスウィーク2020に出展

2. 2021年3月期第2四半期 振り返り

2020年 9月 24日 (木)、25日 (金)の2日間、東京ビッグサイトにて開催された「外食ビジネスウィーク2020」に出展。

「見栄え重視」「実用性重視」「環境対応」の3テーマに分け、「街デリBOX」「ビストロ」「咲き丼」等テイクアウト、デリバリー向けの製品を紹介、環境配慮型新素材「TALFA」を使った「R-DON」、「DINER」を展示し多くのお客様に好評をいただく。



マスク・フェイスシールド着用の徹底

説明スタッフの感染防止対策



街デリBOX



ビストロ



咲き丼



3. 2021年3月期 取り組み方針



今後の取り組み方針

- 感染防止策徹底を前提に企業活動を正常化
- 事業戦略の深掘り
 - ▶ 汎用容器事業の基盤強化：競争力、品質、提案力
 - ▶ 成長市場へのアプローチ：製品力、環境配慮、中国事業

2020年度会社スローガン

- 社員全員の総力を結集して飛躍に向かう
- 働きやすい会社、風通しの良い会社となる

環境課題

- CO₂排出削減
- 海洋プラスチックごみ削減
- 食品廃棄ロス問題

&

ニューノーマル

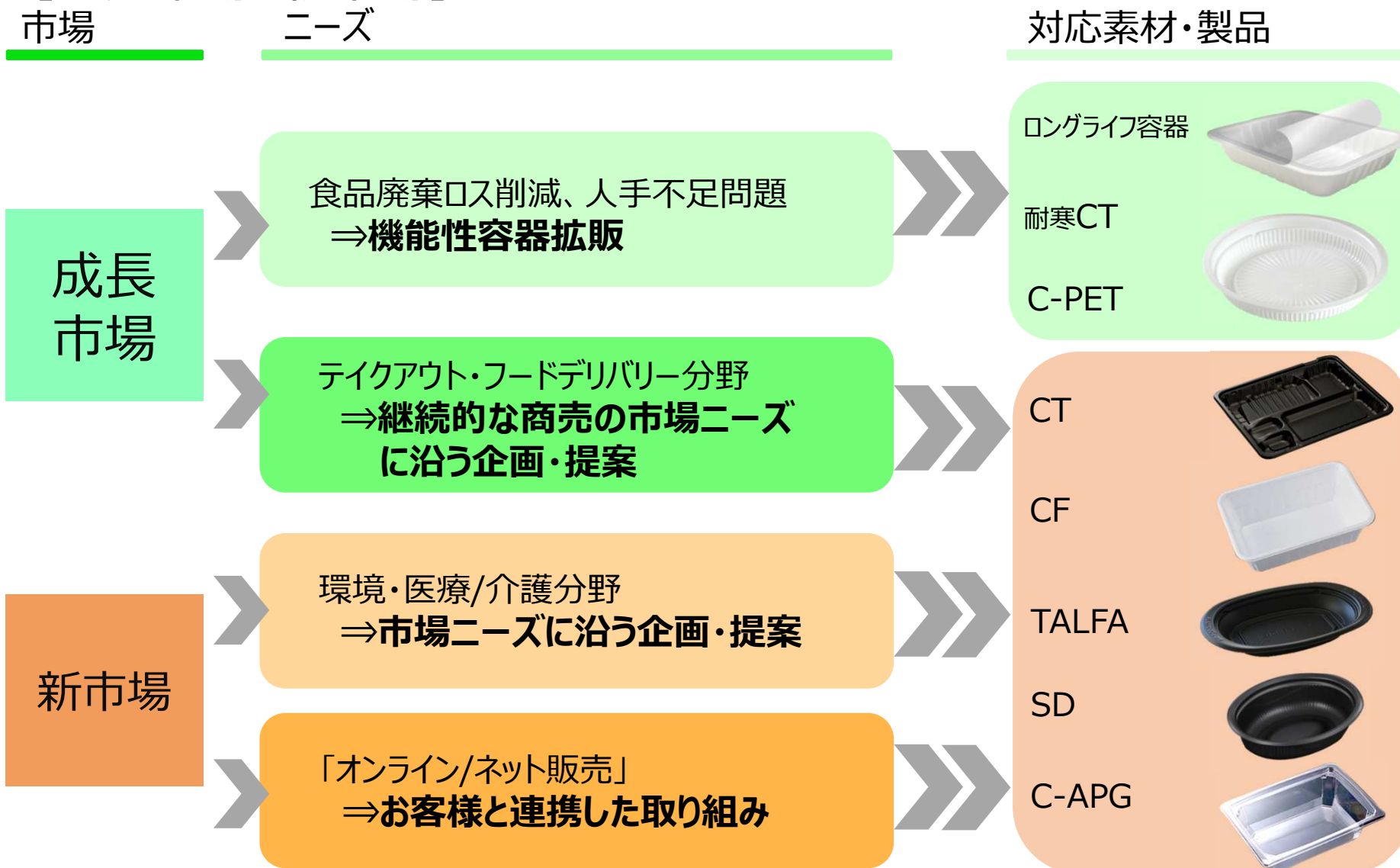
- ライフスタイルの変化
- 中食・内食の拡大
(テイクアウト、フードデリバリー)

打ち手

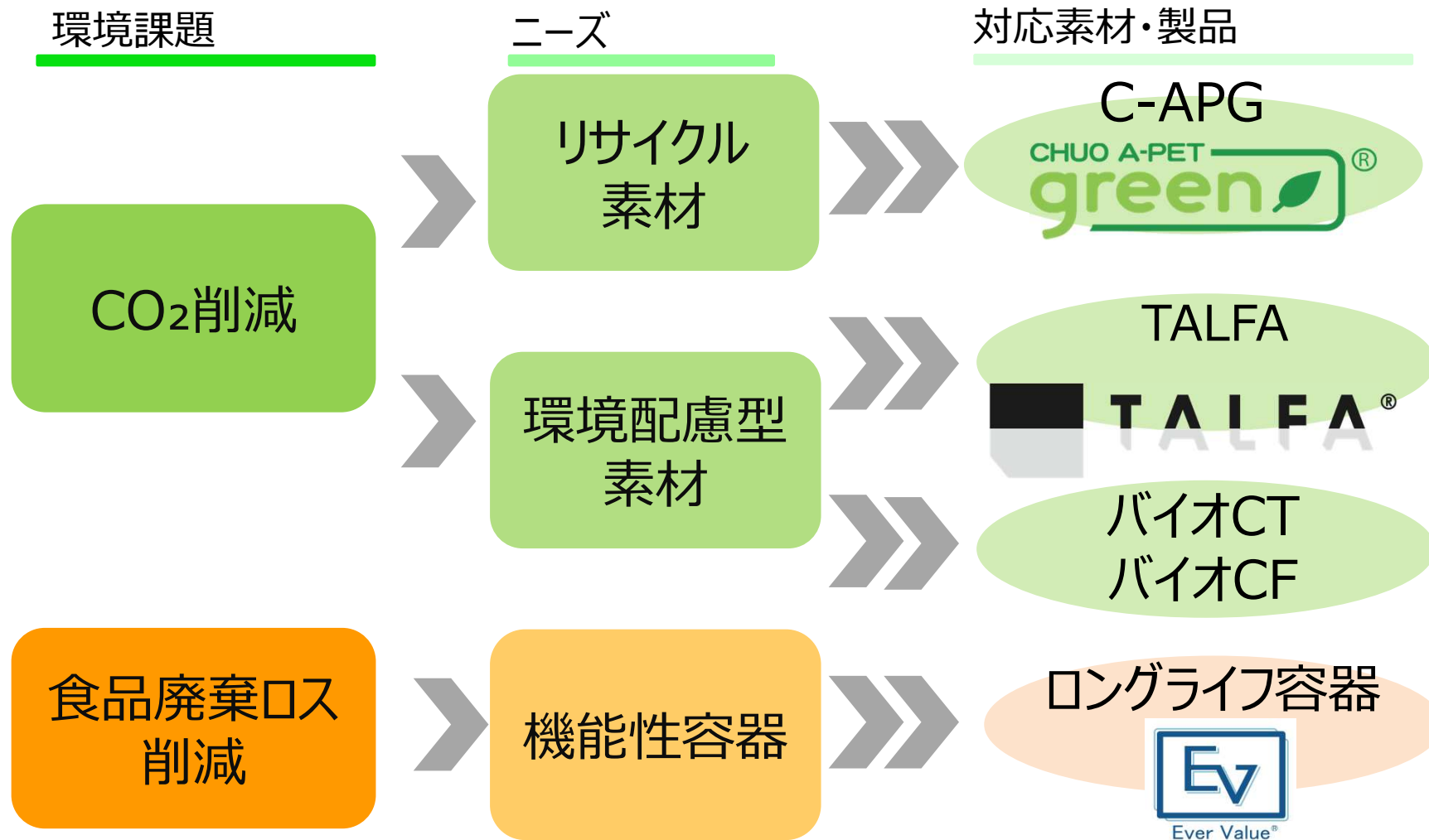
- ①リサイクルへの取り組み強化
(リサイクルPET製品、ケミカルリサイクル等)
- ②「CO₂排出削減」を最重要課題と捉え、
環境配慮型素材・製品の拡充
(TALFA、C-APG、バイオ含有製品等)
- ③食品廃棄ロス削減に寄与する製品ラインナップの強化
- ④中国事業との連携を通じて海外市場向けワークを強化

成長市場へのアプローチ(1)

【成長市場と新市場】



【環境配慮型製品と機能製品】



【環境配慮型素材ラインナップ】

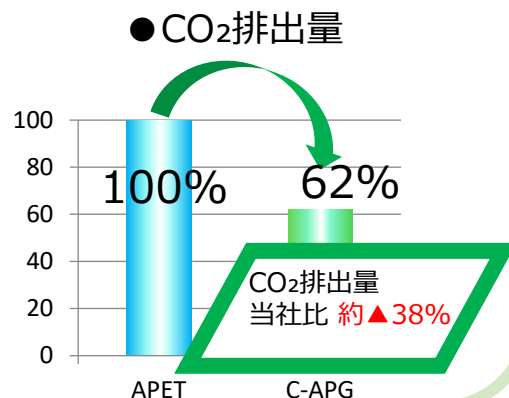
【リサイクル素材：C-APG】



C-APG：PETボトルのリサイクル原料を使用したリサイクル素材



トルク



【環境配慮型素材：TALFA】



TALFA：タルクが主原料でプラスチック50%未満の環境配慮型素材

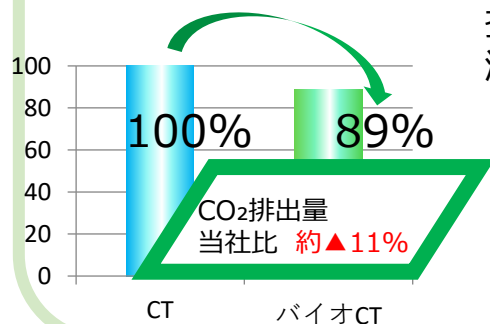


DINER

CO₂排出量 当社比
PP素材比▲46%
CT素材比▲26%

【環境配慮型素材：バイオCT・バイオCF】

● CO₂排出量



バイオCT、バイオCF：持続可能な、植物由来の有機性資源を使用したプラスチック



バイオマスマーク

バイオCTは、バイオマスマーク認定を取得しています

【食品廃棄ロス削減素材：ロングライフ容器】

ロングライフ容器：鮮度の良い食品・鮮度保持ガス・ガスバリア機能を付与した容器とフィルムで密閉し、食品の酸化・菌の増殖を抑制するとともに、食品の鮮度保持を可能にした容器

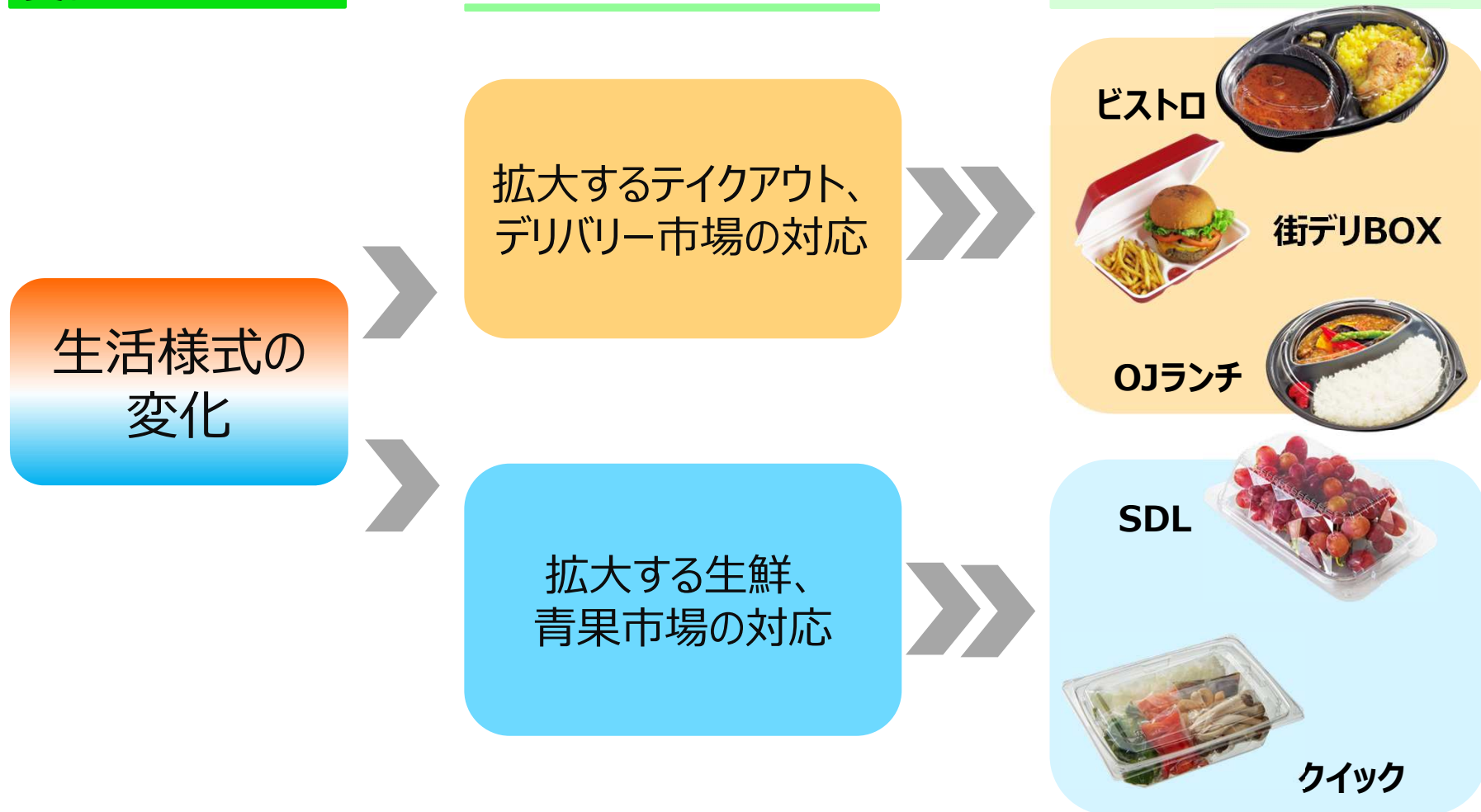


【ニューノーマルでの市場変化に対する製品】

変化

ニーズ

対応製品



【地域と連携した3つのリサイクル】



※2020年3月現在



4. 中国事業 取り組み



<生産・技術面>

感染防止に細心の注意を払い、安定操業を継続

- ✓ 春節休暇明け直後より操業を再開、製品安定供給を履行
- ✓ 3工場間最適生産体制を強化
- ✓ 日本向けタレビンの増産

<販売面>

コロナ禍での需要構造の変化に柔軟に対応

- ✓ 外食大幅減少、中食・内食向け需要が拡大
- ✓ 新規分野として学校給食、企業内食堂向け販売を開始
- ✓ 環境配慮型素材・製品の品揃え拡充

- ✓ コロナ感染拡大時に、地元政府、武漢市内の病院、日本の取引先等にマスク、弁当容器、丼容器を無償提供
- ✓ 本社からの派遣社員3名を2月に日本に一時帰国
(10月より中国への復帰を開始)
- ✓ ローカライゼーションの一段の推進
(無錫中央化学総経理としてプロパー人材を起用)

■ 全体方針

収益力の一段の強化、成長の加速に向けて
外部環境の変化に迅速に対応し得る経営基盤、
オペレーション基盤を確立する

■ 打ち手

既存事業の拡大

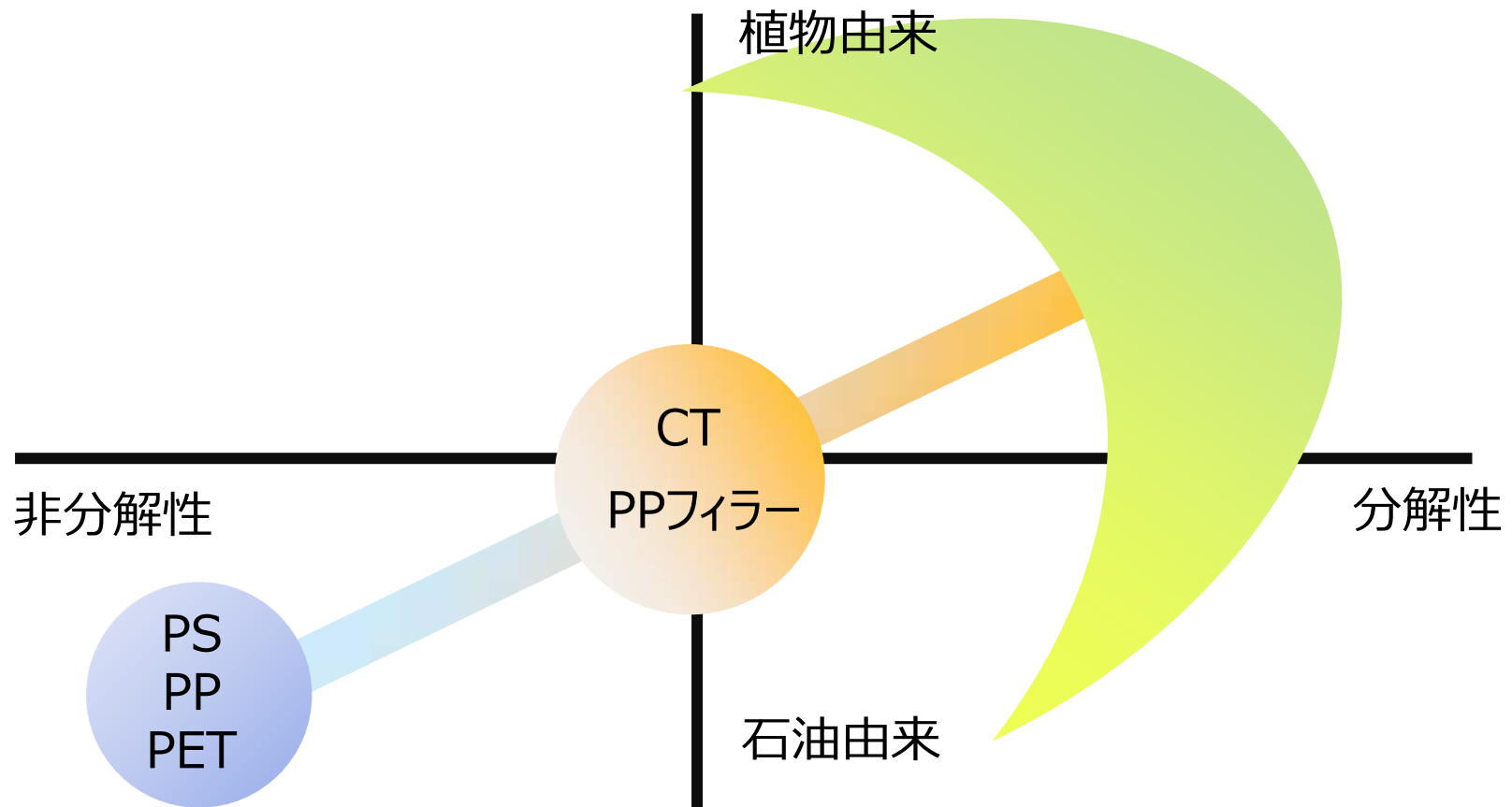
- 市場ニーズにマッチした新製品を開発、上市
- 高成長市場（コンビニ、フードデリバリー等）向け取り組みを強化
- 海外取引の拡大

新規事業への取り組み

- 本社と連携し、新素材・新製品・新技術に着手
- 環境配慮型製品として木製カトラリー、パルプ製容器等販売に着手

長期的施策：環境配慮型素材・製品の開発

2025年より非分解性素材の包装容器への使用制限に向けて対応を検討中。但し、現時点では政府から推奨される素材等の提案はない。先行して規制が開始されるレジ袋やカトラリー類の動向を見ながら当社にとって競争優位な素材の開発を進めていく予定。



本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありませんのでご了承ください。